



## 五社水路

五社水路は、塚原辺りの安威川から引かれ（五社井堰）、富田台地を潤した古い水路です。五社水路に寄って古代に「嶋上郡」と「嶋下郡」の郡界線が引かれ、その境がほぼ今の高槻市と茨木市の境に引き継がれています。

太田・宮田・富田・西五百住・赤大路・総持寺・中城の旧七ヶ村でつくる水利組合の「五社組」が管理し、命がけで守った水路でした。

五社水路は、安威川（あいがわ）から取水した人工の農業用の水路です。富田台地の中央の一番低い「筒井池（紅屋池）」の北端にあたり、溝のような水路が池に流れ込んでいます。この水路が歴史ある五社水路です。

五社とは、富田、宮田、東五百住、西五百住、赤大路地区といわれています。

（東五百住は、のちに脱退されています）

慶瑞寺境内の西の端の一段と低くなっている水路は、島上郡と島下郡とを分けている五社井路（せいろ）です。

水路がいつ頃造られたかは不明ですが、三島地区の古墳が全てこの水路をさけて造られていることをみると4世紀前期ではないかといわれています。

この歴史ある水路を綺麗にし、保存したいものです。

上の写真は、安威川の取水堰の写真です。

詳しくは、情報紙『きつつき21』2012年5月6月号を見て下さい。